

Meeting Notice

学会長インタビュー

第47回日本動脈硬化学会 総会・学術集会 2015.7.9～10

東北大学加齢医学研究所腫瘍循環研究分野教授

佐藤 靖史 先生



「動脈硬化研究の新機軸」をメインテーマに

1972年に動脈硬化の成因、予防、治療に関する研究会が開催され、1974年に日本動脈硬化学会として設立されました。本学会は臨床の学会であり、これまで臨床の先生方が理事長を務められてきましたが、基礎研究者として初めて理事長に推挙され、2014年4月に第9代理事を拝命いたしました。

この度、第47回日本動脈硬化学会総会・学術集会を2015年7月9日(木)、10日(金)の2日間にわたって、仙台国際センター・新展示施設で開催させていただきます。東北地方での開催は、1985年に第17回日本動脈硬化学会総会・学術集会以来の2回目となります。これまで動脈硬化の研究は脂質代謝が中心に行われ、動脈硬化の治療法が発展してきました。もちろん動脈硬化にとって脂質代謝は非常に重要ですが、それだけにとらわれずに、血管生物学をはじめとする新しい切り口で幅広い研究を進めていきたいと、理事長就任時に考えました。そこで、理事長としての志に加え、従来の取り組みに未来志向の新しい潮流を付加したいという願いを込めて、今回のメインテーマは「動脈硬化研究の新機軸」といたしました。

東北地区が一体となって準備に取り組む

東北地区での開催は30年振りです。日本動脈硬化学会東北地区の評議員の先生方にプログラム委員になっていただ

き、東北地区が一体となって準備に取り組んでおります。

今回の目玉として、海外から血管生物学の世界的な権威である Peter Carmeliet 先生 (Medicine Laboratory of Angiogenesis and Neurovascular link / Vesalius Research Center) を招聘しています。特別講演は、これまで大変お世話になった西川伸一先生 (JT 生命誌研究館) と高井義美先生 (神戸大学大学院医学研究科病態シグナル学部門) に、それぞれの立場からお話をいただくことにしています。

“新機軸”をテーマにプログラムを組み込んでいますが、特に新しい試みとして「研修医のためのセミナー」を企画しています。他の臨床の学会ではすでに取り組みが始まっているようですが、本学会では今回が初めてであり、動脈硬化の臨床を中心にお話するとともに、エコーハンズオンも行います。研修医だけでなく、学部学生も含めた若い世代にも動脈硬化のフィールドに興味をもってもらいたいという期待を込めています。

